

有害スラグの調査結果公表、全量撤去を

伊藤ゆうじ県議が一般質問

群馬県議会本会議が28日開かれ、伊藤祐司県議が、東邦亜鉛が排出し県内に違法投棄した有害スラグの問題と、コロナ問題について一般質問を行いました。

伊藤氏は、自社が排出したスラグが鉛やヒ素を含み有害と認識しながら、関係の深い土建業者に出荷し違法に投棄させた東邦亜鉛（会社）は悪質性が高いと指摘。県が科した「産廃処分業停止90日」の行政処分は県の基準に照らしても軽く、「許可取り消し」が妥当とただしました。

県は、会社がすでにスラグの出荷を止めて回収を開始しており悪質性は低いと回答。伊藤氏は、長期にわたり大量に違法投棄されたが回収はごく一部で、高崎市の調査では環境基準は超えていないものの明らかに土壤汚染が始まっていることを示し、「会社はかつて安中公害を起こした企業で県の監督責任は重い。県は全貌調査と結果公表を行い、スラグの全量撤去を会社に命じるべきだ」と求めました。

公立公的病院の再編統合計画は白紙撤回求めよ

伊藤氏は、コロナ禍で明らかとなった保健所や衛生環境研究所などの弱体化対応として予算と人員増を行うこと、地域の拠点病院である公立・公的病院の再編統合の白紙撤回を国に求めるべきと主張。学校教育について、身体的距離確保の観点からも少人数学級化が必要とし、今年度から教員採用枠を増やすなど準備を進めるよう求めました。

県 インフルエンザ予防接種無償化の予算提案

9月30日の議会運営委員会に、インフルエンザ予防接種費用の無償化（対象は65歳以上の方、60～64歳で心臓、腎臓もしくは呼吸器の機能またはヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害を有する方）のための予算として7億8600万円が提案され、10月1日の本会議で質疑、可決される見込みです。

常任委員会は10月2日・5日、特別委員会は7日に開催